◆飯塚ひろし　選　　～会報六月号より～

恋風にお尻焦がして蛍かな　　岡野　満

日本に棲む蛍は十種ほど。よく知られた蛍は、源氏蛍、平家蛍である。光は冷たい放射光で熱はない。恋の蛍は胸を焦がしそうだが、ここではお尻を焦がす。蛍がお尻を焦がすとの発想がなんとも可笑しい。蛍自身は至ってクールで青白い光を放つ。

恋猫や勝者となるも恋の痩せ　　金澤　健

猫の交尾期は年に四回だと言うが、早春の頃が最も激しい。恋猫と聞くだけで、いかにも俳諧的な季題で、大人しい猫が狂ったような突然の発情に可笑しみがある。恋の勝者となっても、連夜の徘徊ですっかり痩せて戻る。過酷な生存競争で我が家の猫とも思えぬほど、奇妙に痩せ衰えて帰って来た。猫の世界も思うほど気楽ではない。痩せ衰えた猫は、可哀想ではあるが、その姿は惨めで、いかにも滑稽である。

東大を受験しただけ大したもの　　久松久子

受験シーズンは親子とも神経質になり、お互いに気を使うが、例え失敗しても東大を受験しただけで、一家の誇りとなる。「落ちたけど、うちの子、東大を受験しましたのよ」「落ちたけど、高校からは推薦されていましたの」と自慢。何処にでも自慢の種があり、愉快である。

半島の芽吹きて太くなつてをる　　三橋百笑

春になると、どの木も新芽を吹き出す。三月、四月の頃である。突端にある半島も芽吹きで大きく膨らんだ。また若草を求め、牛・

滑稽俳句協会ホームページ掲載の画像及び、データの無許可転載はお断りします。

馬の放牧が行われる。木々の芽吹き、牛・馬の重量で更に半島が太くなった。面白い発想の俳句で、もろもろの重量で、半島が沈みはしないかと心配。

◆金澤健　選

　六月の「松山滑稽句会」より、「肘」の題詠句を二句。

肩肘を張って左遷のゴム風船　　井口　夏子

人間もサラリーマンも、あまり肩肘を張ると、左の方へ飛ばされる。つまり…、左遷ですね。大人しくして上へ飛ばされるように（出世と言うのでしょうか？）した方が賢いのでしょうね。

かまきりの腕立て伏せや肘高く　　金澤　健

かまきりが地に踏ん張っている姿を、腕立て伏せと見立てました。かまきりの上肢、下肢のとんがった部分を肘と表現したのですが、昆虫学的に正しい名称はなんというのでしょうか。

◆日根野聖子　選

中尾公彦　句集「永遠の駅」

トースターの熱線二本猟期来る

セーターの中に形状記憶あり

水色のホースのたうつ炎暑かな

ひまはりやピアスはづさる死者の耳

かりがねや蒼天にルビ振つてゆく

ゆく秋の鳥籠が鳥さがしをり

みんみんや皮膚が鼓膜になつてゐる

導火線しかけ発火の蔦かづら

真夜中のあけびの割れて火薬臭

滑稽俳句協会ホームページ掲載の画像及び、データの無許可転載はお断りします。

壺焼きのふつふつ海をこぼしけり
二の酉やえびせんべいにえびの髭
もう帰る燕か駅長だけの駅
あやふやな時間のやうな葛湯吹く
八月の闇にぞろぞろ茄子の馬
神の留守デニムで過ごす日曜日
紅玉に歯形とられてしまひけり

著者は、昭和二十三年、長崎県生まれ。平成十四年に「沖」に入会し、平成二十年に退会。平成二十一年、「河」に入会し角川春樹に師事。平成二十六年「河」を退会し、「くぢら俳句会」を創刊、主宰となり現在に至る。俳人協会会員、現代俳句協会会員。
中尾氏の出演されている「八木健のＣＡＴＶ俳句（第四十五回）」は、愛媛ＣＡＴＶで、九月二十七日に初回放送の後、約一か月間再放送され、その後、滑稽俳句協会のホームページで全国どこからでも無料で視聴できます。

滑稽俳句協会ホームページ掲載の画像及び、データの無許可転載はお断りします。